

芦北町山間部の住民検診から見える 水俣病の地域ぐるみ汚染の実態

水俣協立病院
 神経内科リハビリテーション協立クリニック

藤野 紘
 高岡 滋

2012.2.18 第85回熊本精神神経学会

対象地と魚介類摂取状況

芦北町大字黒岩
 雲海
 標高514m
 田浦漁港から15km

1961年まで山道
 “めご”での魚行商
 砂利道が出来、鮮魚店開店
 71年までは行商も来る
 その後舗装され、行商はなし
 魚介類を多食



黒岩地区の40歳以上の居住者と受診者・率

被害者手帳保持者14人を除く、年齢は2011年11月現在、受診率：%

	男			女			計		
	居住者	受診者	%	居住者	受診者	%	居住者	受診者	%
40代	3	0	0	1	1	100	4	1	25
50代	5	4	80	7	4	57	12	8	67
60代	9	6	67	9	7	78	19	13	68
70代	7	7	100	9	5	56	16	12	75
80代	6	4	67	8	3	38	14	7	50
計	30	21	70	35	20	57	65	41	63

結果 1. 自覚症状

肩が凝る	40名(100%)
体がだるい	39名(97.5%)
頭が痛い	38名(95%)
たちくらみがする	38名(95%)
両方の手がしびれる	37名(94%)
からすまがり(こむらがえり)がある	37名(94%)
腰が痛い	36名(90%)
物忘れをする	36名(90%)
イライラする	36名(90%)
目が疲れやすい	35名(85%)

両方の足がしびれる	34名(82.5%)
何もしたくない気分になる	34名(85.0%)
耳鳴りがする	33名(80.0%)
夜眠れない	32名(89.0%)
会話の最中に自分の話を忘れる	32名(80.0%)
探し物をしている時に話しかけられると物を探すことが出来なくなる	32名(80.0%)
手から物を取り落とす	31名(77.5%)
指先の細かい作業が苦手である	31名(75.0%)

結果 2. 神経所見

	人数 ():%
i) 全身性	4 (10.0)
ii) 四肢末梢優位+全身性	2 (5.0)
iii) 四肢末梢優位+口周囲	1 (2.5)
iv) 四肢末梢優位	30 (75.0)
触・痛覚とも手・足関節より中枢に及ぶ	25
触・痛覚とも手指・足趾のみ	1
痛覚のみ手・足関節より中枢に及び触覚が下肢のみ	1
痛覚のみ手・足関節より中枢に及ぶ	3
v) なし	3 (7.5)

5. 神経症状	(2)その他の神経症状		
	有	疑	無 ():%
体幹の失調	6(15.0)	12(30.0)	22(55.0)
上肢失調	6(15.0)	6(15.0)	28(70.0)
下肢失調※	1(2.6)	2(5.1)	36(92.3)
構音障害	4(10.0)	0(0.0)	36(90.0)
難聴 ※	2(5.1)	0(0.0)	37(94.9)
視野狭窄	1(5.0)	0(0.0)	38(95.0)

※未測定1を除く

診断

水俣病	29 (72.5%)
水俣病疑 (1975年以後の出生者は、「疑」としている)	8 (20.0%)
保 留	3 (7.5%)

※診断基準は、共通診断書による

考察 1. 熊大第2次水俣病研究班立津政順教授による多発地区(月の浦・出月・湯堂)の悉皆調査

1971年調査時 認定患者58人(生存37人、死亡21人)の最多発地区
(当時の全認定患者121人)

全住民 1,120人を対象

結果 1971年受診者928人(受診率83%)、1972年同965人(同86%)

	37人含まず	37人含む
水俣病	144人(16%)	275人(28%)
水俣病疑	107人(12%)	38人(4%)

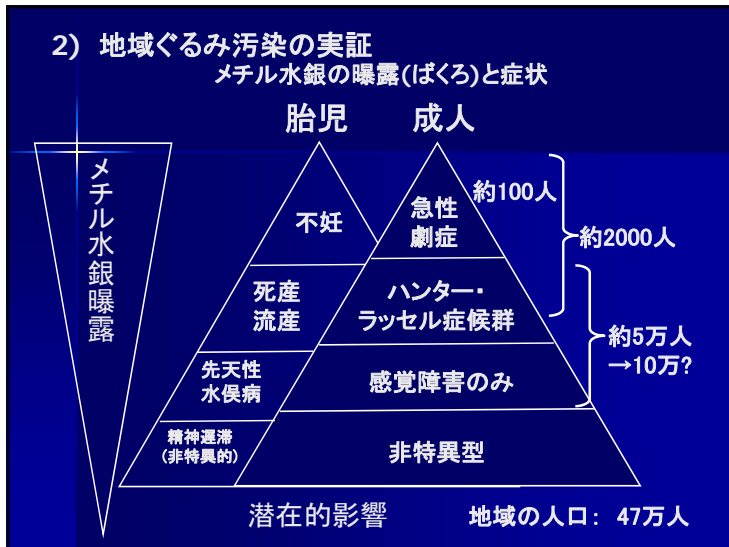
(感覚障害だけの症例は水俣病疑とされていた)

1985年現在 行政認定患者 300人(27%)、他に死亡患者21人

考察 2. 水俣病の41年間の取り組みで明らかにしたこと

1) 病像と広範な汚染の実態

地区名	水俣市茂道	芦北町女島	出水市桂島	津奈木町赤崎
汚染の背景	漁業専業区、胎児・小児・成人の重症患者6人(旧認定)多発区	漁業専業区、成人・胎児の重症患者(新認定)県検診と比較	漁業専業区、過去ネコの狂死、毛髪水銀高値者県検診で患者なし	半農半漁、1人の劇症患者(旧認定)のみ重症の成人・胎児・小児患者発見
調査年	1970~84	1972~73	1974~79	1972~84
対象者	20歳以上 279	16歳以上 122	30歳以上 46	20歳以上 772
受診者	142(51%)	87(71%)	46(100%)	285(37%)
水俣病	109(77%)	82(94%)	45(98%)	232(81%)
水俣病疑	18(12%)	5(6%)	1(2%)	13(5%)
行政認定、他資料	* 20歳以上439中248(61%)が認定申請し、135(申請者の54%、全体の33%)が認定。 * 水俣市茂道は1970~80の住民台帳より調査 居住者279中198(71%)死亡者42中35(85%)が申請、104(53%、全体の37%)、29(83%、全体の69%)が認定。	67(55%)未受診者1名を含む	42(91%) 桂島では全住民を対象とした精密検診(毛髪水銀測定・魚介類摂取調査を含む)を実施し、医師団の診断基準を確立した	1974年9月選挙人名簿の772中576(75%)を調査。居住者441中265(60%)が申請し、21(8%)が認定、89(34%)が棄却、他は保留。 死亡者66中46(71%)が申請し、25(54%)[うち剖検では15中10(67%)]が認定、3(7%)が棄却、他は保留。



考察 3.行政資料による地域ぐるみ汚染の実態(1984年)

1) 大字(おおあざ)別の水俣病認定申請等状況 (熊本県発表)

水俣病の認定申請者が10%を超えている水俣・芦北11地区の被害状況							
地区名	人口(人)	申請者(人)	認定者(人)	人口比申請率(%)	申請者比率(%)	人口比認定率(%)	
田浦町 伊牟田	457	125	33	27.4	26.4	7.2	
海浦	938	197	31	21.0	15.7	3.3	
田浦町	1,805	365	45	20.2	12.3	2.5	
波多島	185	31	1	16.8	3.2	0.5	
芦北町 女島	1,024	403	135	39.4	33.5	13.2	
計 石	1,428	360	21	25.2	5.8	1.5	
津奈木町 篠浜	2,184	961	167	44.0	17.4	7.7	
岩城	2,351	529	119	22.5	22.5	5.1	
水俣市 月浦	927	339	140	36.6	41.3	15.1	
袋	3,143	942	390	30.0	41.4	12.4	
大迫	488	54	4	10.8	7.4	0.8	

人口は芦北、田浦が84年2月、津奈木が84年1月、水俣が80年10月現在。申請者、認定者は、いずれも84年2月現在

2) 最高裁判決後の地域別被害者救済数
水俣病に関する行政処分に関する市町別 統計資料
(環境省) (手帳交付数は2008年10月末現在、人口は2008年12月末現在)

		(1)	(2)	(3)	(4)		(5)	(6)
		公健法上の認定者数	医療手帳(政治解決時)交付者数	保健手帳(政治解決時)交付者数	新保健手帳申請者数	交付者数	治研手帳申請者及び交付者数	認定申請未処分者数(最高裁判決後~)
熊本県	水俣市	1,007	1,582	172		2,994	609	654
	天草市	54	674	59		1,001	469	499
	上天草市	4	23	4		1,262	9	10
	芦北町	346	1,795	157		3,785	889	925
	津奈木町	353	1,624	114		678	428	446
	八代市	7	114	15		279	65	69
	その他	7	1,413	186		5,882	1,024	1,130
	合計	1,778	7,225	707	18,011	15,881	3,493	3,733
鹿児島県	出水市	379	1,377	172		1,283	1,310	1,334
	阿久根市	4	25	7		132	84	99
	長島町	83	503	91		722	347	527
	その他	24	308	31		1,118	437	499
	合計	490	2,213	301	3,698	3,255	2,178	2,459
熊本・鹿児島合計		2,268	9,438	1,008	21,709	19,136	5,671	6,192

3) 最高裁判決後の地域別被害者救済率

40歳以上人口と比較した水俣病申請等をおこなった人の数
(手帳交付数は2008年10月末現在、人口は2008年12月末現在)

		水俣病申請等人口(A)	40歳以上人口(B)	A/B
		(1)+(2)+(3)+(4)+(5)		
熊本県	水俣市	6,364	18,204	35%
	天草市	2,257	62,195	4%
	上天草市	1,302	21,325	6%
	芦北町	6,972	14,059	50%
	津奈木町	3,197	3,580	89%
	八代市	480	82,942	1%
	合計	20,572	202,305	10%
鹿児島県	出水市	4,521	33,878	13%
	阿久根市	252	16,182	2%
	長島町	1,746	7,633	23%
	合計	6,519	57,693	11%
熊本・鹿児島合計		27,091	259,998	10%

4) これまで表に出た水俣病被害者の総数
熊本県、鹿児島県の合計

行政認定患者(2011年12月末現在)	2,271人
同上却下14,416(1996年7月末現在)	
1995年政治解決策による救済	11,537人
同上却下	2,266人
(一部は特措法に申請)	
ノーモア・ミナマタ訴訟原告患者	2,992人
水俣病特措法申請者(2011年12月末現在)	48,467人
公健法に申請中(04年10月後, 11年12月末現在)	370人
合計	67,903人

考察 4. 黒岩地区検診から見えること

全居住者(40歳以上、79人)中での感覚障害の出現頻度

被害者手帳保持者	14人(18%)
本調査で感覚障害を確認	39人(49%)
合 計	53人(67%)

受診者41人中での同出現頻度

黒岩地区転出者6人中での同出現頻度

隣接地区(上原、長谷)の受診者

13人中での同出現頻度

結論

- 1 黒岩地区住民の示す感覚障害などの神経症状は主として行商ルートによる魚介類が原因のメチル水銀汚染の影響と考えられる。そして、汚染は地域ぐるみであることが予測される。
- 2 これまでの漁業地域の地域ぐるみ汚染の結果のように、行商ルートによる汚染でも同様な地域ぐるみの汚染をきたしていることが考えられる。
- 3 行商ルートによる他の山間部や、それよりもより魚介類を得やすい市街地においてもメチル水銀汚染が地域ぐるみで潜在していることが予測される。
- 4 これらの地域での実態解明の健康調査が不可欠である。